

環境社会心理学

—市民参加による持続可能な社会づくりにおける人々の行動理解・行動変容を目指して—

担当者氏名：前田 洋枝
(研究室番号：Q6006)

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

持続可能な社会の実現には、ハード面の整備、ソフト面での仕組みづくり、一人ひとりの環境に配慮した行動の実行がともに必要です。例えば、不用になったダウン製品（羽毛布団やダウンのコートなど）を回収して羽毛を洗浄・リユースするグリーンダウンプロジェクトは、洗浄機器を持つ会社やリユース品を回収する拠点を持つNPO、グリーンダウンを使ったダウン製品を生産・販売するアパレル企業などがそれぞれに持つ「資源」、結びつける「仕組み」、そして、「リユース用に回収に出す」に「行動変容」した人々によって実現します。グリーンダウンプロジェクトでは、回収したダウン製品から羽毛を取り出す作業で障害を持つ方の仕事の場を増やしており、羽毛を採取される水鳥の命の尊重にもなります。

人の態度や行動の規定因の理解と変容を促すさまざまなアプローチは、社会心理学の重要なテーマです。本プロジェクト研究は、環境社会心理学の知見と方法を元に取り組みます。

行動は、個人で可能な環境配慮行動からボランティア活動や市民参加まで含みます。態度・行動の対象となるトピックは環境問題・環境政策の他、感染症予防など健康の保持・増進や安心安全（防災・防犯）に関する態度・行動に関心のある学生さんも歓迎します。

行動の規定因を明らかにする調査や実験、行動を促す政策や各種団体の活動あるいは環境教育プログラム等の効果を評価し、改善案を提案する、情報提供の内容やゲーミングを含めたプログラム作りとその実践の成果・・・いずれも卒業論文にすることができます。

市民参加では、英国・フランスで始まった「気候市民会議」が世界・日本で実施例が増えています。会議に対する評価や提言の受容に影響する要因とは？会議の提言は実際の政策に活かされる？地域に住む人々、開催に関わる人々・参加者にどんな意義が評価され、影響を与える？シナリオ実験や関係者へのインタビュー調査などで明らかにしていきます。

以上のような内容について、「環境社会学」「地域環境論」「政策と市民参加」でお話ししていることをベースに、実際に調査や実験などを実施します。

2. プロジェクト研究の進め方

3年次第1Q：

環境社会心理学の基本的な文献を読み、研究方法を理解します。3年生の間に行う調査等の実習テーマもゼミメンバーで相談して決定します。

3年次第2Q（総合演習B）～第4Q：

第1Qで決めたテーマで調査や実験を準備して実際に実施し、結果の分析を行ないます。

例年、夏休みも3回程度サブゼミをして調査や実験の準備を進めます。第3・4Qでは各自の卒論テーマに関連する文献を読み、メンバーでディスカッションします。春休みにもサブゼミを行ない、3年生の終わりに序論を書き始めておきます。

4年生：

序論を仕上げ、質問紙等を準備し、調査等を行ないます。第2Qの後半～第3Q前半には実際に調査等を実施し、第3・4Qでは、結果を分析して卒論を仕上げていきます。質問紙案や分析結果は定期的にゼミで発表し、メンバーでディスカッションしながら進めます。

なお、ゼミメンバーの希望や関心に応じて、そのテーマの政策に関わる行政の担当者やNPOの方などと意見交換をする機会や施設などの見学も設定することがあります。

3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

「環境社会学」を2年次に履修済みか、3年次に履修することを原則とします。

「環境政策論」、「地域環境論」、「政策と市民参加」は、2年次までに履修済みか、3年次に履修することが望ましいです。

そして、3年次第1Qでは「環境調査法」を履修することを強く勧めます。加えて、行政の環境政策やNPOによる環境問題解決の取組に興味があれば、第2Qに開講される前田担当の「政策の現場からC」も履修すると良いでしょう。

また、原則として、3年生の第2Qに開講される総合演習B（担当：前田）を履修すること（やむを得ない理由で履修が難しい場合は、プロジェクト研究選考の際の面談で相談すること）。

コース選択は、環境政策コースの履修が望ましい（公共政策コース、国際政策コースも可）。

4. プロジェクト研究開始までの準備

3年次開始までに読んでおくことが望ましい文献を指示することがあります。

日頃から環境配慮行動を促す活動や、環境政策や市民参加に関するニュースに気をつけておくなど、アンテナを張っておくと良いでしょう。

5. その他

テーマを自主的に見つける意欲があり、困ったことなどあれば、遠慮なく報告・相談するなど責任ある行動をする人、主体的にゼミでの学びに参加する人を求めます。

「実際にデータを取り、その分析をすること」を重視しています。統計学の履修が望ましいですが、未履修の学生さんにも分かりやすく統計ソフトの使い方や分析結果の見方などを説明します。アンケートの作り方・結果の見方、人々の意思決定の仕組みや行動を促すアプローチの理解や実践経験は、民間企業・公務員のいずれでも就職後に役立ちます。

6. 選考方法

志望理由書と面接(対面または ZOOM)により、決定します。

プロジェクト・アワーに出席していることが望ましいです(選考では、プロジェクト・アワーに出席している学生さんを優先することがあります)。